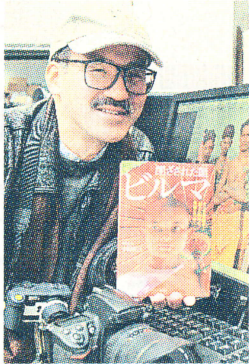


報道写真家の宇田有三さん(46)＝神戸市灘区＝が軍事政権下のミャンマーで、農民の暮らしや民主化闘争などを紹介したルポルタージュ「閉ざされた国ビルマ」を出版した。17年間で撮影した8万枚以上の中から、難民キャンプや民族解放軍兵士などの写真約80枚も織り交ぜ、表には出にくい生の姿を詳細に伝えている。

(斎藤雅志)

神戸の報道写真家 宇田有三さん

ミャンマーの内情を紹介した著書を持つ宇田有三さん＝神戸市内



「閉ざされた国」伝えたい

ミャンマーのルポ出版

軍事政権下の暮らしを紹介

取材1600日 写真8万枚撮影

宇田さんは神戸市出身し、全土を歩いた。身。中学校の英語教師を 49年から政府に武力抵抗を辞めて1990年に渡米。抗を続けているカレン民サン・スー・チャー氏が軟禁されて1996年、自宅前まで軍事政権、先住民列する少年兵の姿。山中で支持者らと対話集会をテーマに12カ国を取って避難生活をする農民を取材。ミャンマーを初めて訪れた93年以降、延べ約1600日を取材に費や

が表れている。場の緊迫感を伝えている。宇田さんは「制限された社会で生きる人たちの苦しみを伝えること、自ら大切さを実感して話す。B6判、238頁。1785円。本の問い合わせは高文研 0476-24-1100

アウン・サン・スー・チャー氏が入院している病院前で、プラカードを掲げる支持者ら＝2003年9月 (いずれも宇田有三さん撮影)



山中に隠れ住む避難民の家族＝2003年